

2026 年 7 月 31 日
朝日自動車株式会社

路線バス（乗合バス）の上限運賃改定【埼玉県】の申請について

朝日自動車株式会社（本社事務所：埼玉県春日部市、取締役社長：柏倉則行）では 2026 年 7 月 31 日に、国土交通省へ埼玉県内の乗合バス運賃の上限運賃改定認可申請を行いました。

申請理由および申請概要等は次のとおりです。

お客様にはご負担をおかけいたしますが、事情ご賢察のうえご理解を賜りますよう、よろしくお願い申しあげます。

1. 申請理由

弊社の埼玉県内の乗合バス運賃は 2023 年 12 月 23 日に、群馬県内および茨城県内並びに千葉県内は 2025 年 4 月 15 日に運賃改定を実施し、安全運行を最優先としながら、路線網の拡充や利用者利便策の充実を図ってまいりました。しかしながら、少子高齢化や人口減少など、バス利用者数の減少が見込まれ、厳しい事業運営が続くと考えております。

他方、バス運転士の高齢化や労働者不足解消をするため待遇改善を進めたことから人件費が増え、物価高騰による修繕費等も増加傾向となっております。また、最優先事項である安全対策をはじめ、定期的な車両代替・利便向上策・環境対策等のコストも同様に増加傾向となっており、収入面の苦境と併せて事業経営を圧迫してきております。

しかしながら、このような事業環境であっても、公共交通としての弊社バス事業を、今後も安全かつ安定的に継続していく必要があります、そのため、今般、上限運賃の変更認可申請をいたしました。

今後も、引き続き経営努力に努めてまいる所存ですので、何卒ご理解を賜りますようお願い申しあげます。

2. 申請概要

- | | |
|----------------|---|
| (1) 申請日 | 2026 年 7 月 31 日（金） |
| (2) 運賃改定実施予定日 | 2026 年 11 月中（認可後決定） |
| (3) 申請対象路線 | 弊社の埼玉県内全路線（他県跨ぎ路線の区間を含みます。なお、コミュニティバスを除きます。） |
| (4) 上限運賃の平均改定率 | 19.97%
(実施運賃に関しては、初乗運賃額（220 円）のほか、概ね 10%程度のアップを予定しております。（一部路線を除く）) |
| (5) 運賃単位 | 現金・IC カードとも 10 円単位です。 |

(6) 現行・申請運賃比較表

埼玉県	現行運賃		実施運賃(予定)※1		申請(上限)運賃※2	
	現金	IC カード	現金	IC カード	現金	IC カード
初乗運賃	200 円		220 円		260 円	
同 定期券	割引率 25%		割引率 25%		割引率 25%	
(通勤 1 か月)	9,000 円		9,900 円		11,700 円	

※1 実施運賃は、認可が得られた上限運賃の範囲内で実施する実際にお客様から収受する運賃額です。

※2 申請（上限）運賃は、事業の経営に必要な原価に応じて算出される、バス事業者が収受してもよいとされる運賃の上限額です。

(7) 主要区間の運賃

(円)

区間	片道運賃		通勤定期券（1ヶ月）	
	現行運賃	実施運賃	現行	実施運賃
	現金・IC (同額)	現金・IC (同額)		
越谷駅東口～越谷市立病院	210	240	9,450	10,800
春日部駅西口～地方庁舎前	200	220	9,000	9,900
久喜駅西口～モラージュ菖蒲前	420	470	18,900	21,150
鴻巣駅～免許センター	200	220	9,000	9,900
熊谷駅～妻沼	530	590	23,850	26,550

3. 埼玉県内の輸送人員及び収支状況

埼玉県		輸送人員	収支状況
2026 年度（申請年度）※3		18,944 千人	△360 百万円
2027 年度（推定年度）	運賃改定前	18,529 千人	△778 百万円
	運賃改定後※4	17,880 千人	△275 百万円

※3 2026 年度の輸送人員、収支状況は推計値です。

※4 2027 年度運賃改定後の輸送人員、収支状況は申請(上限)運賃での推計値です。

4. これまでの経営合理化状況及び今後の取り組み

弊社ではこれまでも不採算路線の再編や需要にあわせた輸送力の見直しなど、事業運営の合理化を図るとともに、管理コスト削減やアイドリングストップによる燃料費削減等、様々な取り組みに努めてまいりました。加えて、バスの車内外を活用した広告（ラッピングや、車内広告等）等により、関連収入の確保にも努めてまいりました。

今後も上記施策を継続しながら、運行ダイヤの見直しや、DX（デジタルトランスフォーメーション）による業務の効率化等にも努めたうえ、継続して経営改善に取り組んでまいります。

5. 安全対策への取り組み

弊社では、バス事業の最大の使命である「輸送の安全」を常に最優先に考えて、事業に取り組んでおり、お客様に安心してご利用いただけるよう今後も継続して安全性の向上に努めてまいります。

具体的には、運転士への安全教育をはじめとして、運転士に指導を行う管理者への教育にも力を入れたソフト面の施策を継続して実施しており、今後も引き続きレベルアップを図ってまいります。またハード面では、お客様が乗り降りしやすいノンステップバスの導入を進めるほか、ドライバーステータスモニター※5 や異常時常対応システム（EDSS）搭載バス※6 の導入など最新技術を積極的に取り入れながら、引き続き安全対策に対して積極的に投資を進めてまいります。

また、健康起因の事故を防止するため、全従業員を対象とした睡眠時無呼吸症候群（S A S）の検査や、脳MRI健診を定期的に行っています。

※5 設置されたカメラが、つねに運転中の乗務員の状態をモニタリング。乗務員の居眠り・眠気、脇見を検知すると、運転席のシートバイブレータが作動し、乗務員へ警告する装置です。

※6 走行中の運転士に異常が発生した際、運転席もしくは車内の非常ブレーキスイッチを押すことで制動を開始し、速度を段階的に低下させて車両を停止する装置です。

6. サービス向上への取り組み

弊社では、利便性向上策として、バスナビゲーションシステム（バス位置情報システム）を導入しているほか、「朝日自動車グループ共通学生フリーパス（1年定期券・6か月定期券）」や「70歳以上の方を対象とした高齢者向けの定期券（アクティブシニアパス）」などの割引率の高い商品を発売しています。また交通系ICカードの導入など、これまでも様々なサービス向上策に取り組んでまいりました。

今後も、ノンステップバスの更なる導入や、車内における運賃等案内表示機の新型機器（液晶パネル方式）への代替、24時間いつでもどこでも購入できるスマホ定期券の導入など、サービス改善に引き続き努めてまいります。あわせて、先進技術やITを活用した新たなサービスなども検討してまいります。

7. 将来の課題等に対する取り組み

今後の社会的課題として、脱炭素化や労働力（運転士）不足などが大きな問題になっており、バス事業者としてこれらの問題に積極的に取り組む必要があると考えております。

弊社では、EVバスや自動運転等の新技術導入に関する情報収集も行い、引き続きこれらの社会的課題に対して積極的に取り組んでまいります。

お問合せ連絡先
朝日自動車株式会社
本社事務所(運輸部)
(電話)048-812-7172